

優秀な技能・技術を保有し後進の指導・育成などで 会員企業の大工技能者3人が 国交大臣から「建設マスター」に顕彰

「建設ジュニアマスター」にも2人が顕彰

令和の時代に入って初めての優秀施工者国土交通大臣顕彰式典が東京・港区のメルパルクホールで10月11日午後に関催され、会員企業3社に所属する3人の大工技能者が、「建設マスター」に顕彰された。また、今後の活躍が期待される青年技能者を対象に創設された青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰でも、会員企業2社の2人が「建設ジュニアマスター」として顕彰された。顕彰された5人は、それぞれに「一層の技術・技能の研鑽に励んでいきます」と語っていた。

「建設マスター」として顕彰されたのは、住友林業(株)の施工会社である住友林業ホームエンジニアリング(株)の重田俊明さん(49歳)、(株)土屋ホームの鳴海昭人さん(45歳)、ポラテック(株)の専属大工の今井洋平さん(48歳)の3人。鳴海さんは台風19号が接近したため、この日の式典を欠席した。

優秀施工者顕彰制度は、「ものづくり」に直接従事されている方々に誇りと意欲を持っていただくとともに、次世代の建築現場の担い手を確保・育成し、一層の技術・技能の向上を図ることを目的に、平成4年度に制度化された。20年間以上にわたって建設工事に従事し、現役で活躍している建設技能者のうち技術や技能・人格面で優れ、若手技能者の育成に努めている方々を顕彰するもの。

①技能・技術が優秀②施工の合理化に貢献③後進の指導育成に努め④安全・衛生の向上に貢献している——などを基準に、所属団体からの推薦によって選考された。

顕彰式典では佐々木紀・国土交通大臣政務官が、「建設産業は従事する皆さんの技術・技能に支えられています。皆さん方は第一線で長年にわたって技能を十分に発揮するとともに、後進の育成などにも積極的に励まれてくれました。皆さんの尽力と支えてきたご家族の方々に敬意を表するとともに、建設産業が魅力ある産業に発展するよう

期待します」と挨拶した。

無事故で長年にわたって住宅建設に従事

3人のうち重田さんは、住友林業の企業内訓練校である住友林業建築技術専門校の卒業生で、これまで30年以上も大工職に従事している。高難易度物件や展示場のモデルハウスの建設には必ず指名がかかるほど高い技術を持ち、これまでに100棟超の建設に携わってきた。作業前に必ず集合KY活動を行い、約30年間にわたって無事故を続けている。現在は同社神奈川事業部で技能職リーダーとして活躍し、平成26年には社内認証制度で最も位の高いSMC(スミトモ・マスター・カーペンター)認定証を取得した。

重田さんは顕彰状を手に、「6歳の息子に後を継いでほしい」と夢を語っていた。

ポラテックの今井さんも千葉県内の高校を卒業して以来、約30年間にわたって大工職に従事している。同社の約400人の大工職の中でも技能・技術が特に優秀な一人で、平成30年度には一級建築大工技能士の資格を取得した。グループ内の業者提案制度でも数度にわたって改善提案を行っている。無事故期間は29年間に達し、安全優秀現場表彰を受賞したほか、お客様満足施工証を8回受賞するな

ど高い技術力を持っている。ポラスグループの大工・職人の会である「中央工匠会」の役員を務めるなど、後進の育成に努めているという。東日本大震災の復興支援では、同社の一員として宮城県名取市で木造応急仮設住宅の建設に

携わった。

ご夫妻で式典に出席した今井さんは、「この受賞を早く両親に報告したい」と微笑んでいた。

鳴海さんは土屋ホームの企業内職業訓練校・土屋アーキテクチュアカレッジの3期生として入社、約26年間にわたって北海道のほかに長野、宮城県で住宅建設に従事してきた。卓越した指導力と技術力を見込まれ、平成10年から同カレッジの指導員として後輩を育成している。同社の主力構法「BES-T構法」の開発プロジェクトに現場担当者として参加した経歴を持っている。お客さまからの指名や紹介など、高難度物件やモデルハウスを含め平成30年度だけで9棟を施工したという。道具への思い入れも強く、さまざまな道具を自費で購入し作業効率の向上、完成度の高い住宅施工を意識している。

無事故期間は17年近くになり、鳴海さんは電話取材で、「いつ、誰が来ても良いように率先して建設現場の清掃を心掛けています」と無事故の秘訣を語っていた。

この日の顕彰式典では全国で456人が顕彰され、これで平成4年度以降延べ10,529人が「建設マスター」に顕彰されたことになる。顕彰者は地域ごとに起立し、佐々木・政務官から代表者に顕彰状と建設マスターの徽章が授与された。

お客さまから高い評価や施工法の改善なども

会場では引き続き青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰が行われ、青木由行・国土交通省土地・建設産業局長が代表者に顕彰状を授与した。この顕彰制度は概ね39歳以下の優秀な建設技能者で、10年以上の実務経験者が対象となっており、平成27年度に設けられたもの。

会員企業の従業員で顕彰されたのは、住友林業ホームエンジニアリングの施工を担っている一人親方の水野義章さん(39歳)、ポラスハウジング協同組合の芝田誠さん(39歳)の2人。

このうち水野さんは東京工芸大学(工)を卒業して大工職を志し、社寺建築の工務店などを経て平成22年に同社に入社した。通算で17年以上の大工職経験を持ち、同社から平成23年と28年に業績最優秀者賞を受賞したほか、30年には首都圏地区安全環境大会で表彰された。高難易度物件や大型・高額物件を数多く手掛けており、野地板下地のタルキ釘の打ち抜きで工夫改善法を提唱するなど、課題の解決や施工の合理化に貢献している。品質・安全・整理整頓などお客さまのことを考えた現場づくりを心掛け、他の大工職などの模範になっているという。



水野さんは「10年以内に自宅を自分の手で建設したい」と夢を語っていた。

千葉県内の高校を卒業後にポラス建築技術訓練校に入校し、現在はポラスハウジング協同組合の埼玉施工推進課で主任として活躍している芝田さんは、これまでに平成25年、26年、27年と3回にわたってお客様満足度最優秀賞を受賞。「現場を綺麗にすること」を心掛けており、作業中でも道具や部材がどこにあるかということを常に把握しているという。一級建築大工技能士の資格を取得し、最近では幼稚園やグループホームといった非住宅の施工も任されている。規矩術を学び直して伝統技能の向上に努めており、プレカットでは対応できない施工力を身に付けている。埼玉県が主催する第26回彩の国職業能力開発促進大会で優秀技能者として表彰された。「会社から『難しい仕事は芝田に任せる』と言われるよう、今以上に技術・技能を高めたい」と芝田さんは抱負を語っている。

この日の「建設ジュニアマスター」顕彰では2人を含めて全国の105人が顕彰された。平成27年度以降、今回の顕彰で530人の「建設ジュニアマスター」が誕生したことになる。2人はそれぞれに「初心を忘れることなく、今後も良質な木造住宅の施工を続けていきます」と語っていた。

木住協の会員企業で建設マスターとして顕彰された大工職は平成12年度以降で延べ42人、建設ジュニアマスターも延べ14人となり、今後の活躍が期待されている。



式典では代表に顕彰状が手渡された

